

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法法人ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月26日	外部評価確定日	平成30年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成17年11月1日に開設し、13年目を迎えます。開設当初からの職員もおり、様々な経験をする中で、新しい知識を習得し、ケアに当たるとともに、後進の人材育成にも努めています。閑静な住宅街の中にあり、自然環境にも恵まれ、ウッドデッキから見える景色は美しく、四季の移ろいを肌で感じる事ができます。併設の施設の裏には美彩の森があり、入居者様の散歩や憩いの場となっています。畑では、季節の野菜を作り、入居者様と一緒に収穫する喜びを共に分かち合い、漬物や料理に使用し、召し上がって頂いています。また、併設の特別養護老人ホームは30年の歴史があり、地域の介護の拠点となっています。職員は、入居者様の立場に立った支援を心掛けており、行動を問題として捉えるのではなく、行動をその方のサインとして捉え、可能性を発見し、新たな行動への誘発へと繋げています。認知症に特化した施設として、認知症に対する医学的、社会的理解を深めて行けるよう、日々努力しています。ここでの暮らしを長く続けて頂けるよう、医療面は訪問看護師と24時間連携がとれ、早期に対応し重度化を防ぎ、入院日数の減少に繋がっています。併設事業所の理学療法士、栄養士との連携を図り、入居者様の現状に即したケアを提供しています。入居者様は和やかな雰囲気の中で、自分らしく生活されています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームきたがたは、風光明媚な自然環境の中に立地する。開設13年目を迎え、これまでの経験と新しい知識を学び、チームケアを実践しているホームである。集団での行事よりも入居者個人の能力を活かして、趣味や楽しみごとを支援し、「自分らしく、ほがらかに」の理念を掲げ、職員一丸となり入居者中心のケアに努めている。法人敷地の中に多種類の樹木や花を植え、整備された『美彩の森』と呼ばれる素晴らしい散歩コースがある。花の盛りの中を入居者はゆっくりと歩き、憩いの場所となっている。畑作業や野菜の収穫、漬物漬け、日常的な掃除や調理を共に行い、生き活きとした表情の入居者の様子が家族からも喜びの声が聞こえている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に置き実践に繋げている。理念については入居者とともに日々の朝礼で唱和し、正面玄関の見えるところに掲示している。	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に置き実践に繋げている。理念については入居者とともに日々の朝礼で唱和し、正面玄関の見えるところに掲示している。	法人理念のもと、ホーム独自でも理念を掲げ、職員一丸となり実践に繋げている。新採職員には、理念をケアの道しるべとして心に留めておくよう指導している。定期的な認知症の勉強会時には日頃の入居者との関わりを振り返り、理念に照らして質の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームきたがた湖山亭と合同でお月見会開催、法人の納涼祭に加わり、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。地域の秋祭りの時は子供浮立に立ち寄り、入居者様に太鼓をたたいて頂く等交流ができています。	グループホームきたがた湖山亭と合同でお月見会開催、法人の納涼祭に加わり、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。地域の秋祭りの時は子供浮立に立ち寄り、入居者様に太鼓をたたいて頂く等交流ができています。	自治会には加入していないが、毎年地域の人と共に溝掃除をしている。ゴミ捨てに行き、挨拶を交わしたり、地域の敬老会や夏祭りの案内をもらい出席している。また、ホームの月見会に近所の方を招待するなど日常的な交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の2ヶ月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取り組みや地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。しかし、お便り等で運営推進会議への家族様の参加を呼び掛けているが、家族様それぞれの事情があり、中々参加が難しい状況にある。	入居者様の2ヶ月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取り組みや地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。しかし、お便り等で運営推進会議への家族様の参加を呼び掛けているが、家族様それぞれの事情があり、中々参加が難しい状況にある。	運営推進会議は、それぞれの役職により情報提供がなされている。区長からの地区行事に関する情報を得て、地域の子供達の見守り隊へ老人会と共に参加したこともある。保健師からは健康管理に関する話もあり参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況は、定期的に市担当者に報告を行っている。また、疑問や問題が出た時は、市役所、社協などへ相談したり出向いて協力関係を築いている。また、定期的に介護相談員の訪問もあっている。	公的制度を必要とする入居者の状況は、定期的に市担当者に報告を行っている。また、疑問や問題が出た時は、市役所、社協などへ相談したり出向いて協力関係を築いている。また、定期的に介護相談員の訪問もあっている。	グループホーム協議会に入会し、互いの情報交換をしたり、実践報告会に参加もした。あんしんサポートの利用希望時には家族へ説明をしてもらう等、気軽に相談出来る関係が構築されている。空き情報も定期的に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠は、職員と家族と十分な協議を行い、柔軟に対応をしている。転倒のリスクの高い方にセンサーコールを設置する際は、家族様へ説明後、同意書に署名捺印を頂いている。また定期的に見直しも行っている。	行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠は、職員と家族と十分な協議を行い、柔軟に対応をしている。転倒のリスクの高い方にセンサーコールを設置する際は、家族様へ説明後、同意書に署名捺印を頂いている。また定期的に見直しも行っている。	身体拘束廃止に関わる研修は年間計画により実施しており、職員は拘束の内容と弊害を理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。入居者の立場に立ち、入居者の行動をサインとして捉える考え方により言葉による拘束もしていない。玄関の鍵は家族と十分な協議を行い、柔軟な対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。また、必要性がある時は本人と関係者で十分に話し合い、成年後見人制度の情報提供などを行っている。	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。また、必要性がある時は本人と関係者で十分に話し合い、成年後見人制度の情報提供などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には毎月お便りを送付し、面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には毎月お便りを送付し、面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	家族の面会時には、常に近況を報告し、要望や意見を聞き、話しやすい関係を構築するよう努めている。出された意見は前向きに検討し改善する姿勢を持ち、入居者や家族の満足が得られるよう努めている。定期的な便りを送付し、敬老会や運動会の行事に出席してもらうよう依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	ホームの特色は、「チームケアの充実」と言えるほど、職員が互いの意見を尊重し合いながら、ケアが行われており、管理者と職員は日頃から意見を出し合い、質の向上を目指している。職員の資格取得に当たり、試験対策講座を実施するなど協力的である。職員が自己評価をした後に施設長が個人面談をすることで職員の意欲を高めるよう育成をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会に所属し、職員を研修等に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事に参加してもらう等交流を深め、サービスの質の向上に努めている。また、佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、認知症ケアの質の向上に努めている。	佐賀県グループホーム協会に所属し、職員を研修等に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事に参加してもらう等交流を深め、サービスの質の向上に努めている。また、佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、認知症ケアの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、居室や共有スペースなど全体を見てもらおうようにしている。その際、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。	利用前に、居室や共有スペースなど全体を見てもらおうようにしている。その際、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の体験談や会話の中から学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながらおこなうようにしている。	利用者様の体験談や会話の中から学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながらおこなうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にした支援が来ている。	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にした支援が来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により自宅に必要な物を取りに行ったり、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、檀家寺へ出向いたり、地域の敬老会等に参加し馴染みの方々と会う機会を設けている。	本人の希望により自宅に必要な物を取りに行ったり、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、檀家寺へ出向いたり、地域の敬老会等に参加し馴染みの方々と会う機会を設けている。	入居時に家族よりアセスメントとして聴取しているが、それ以後にも、日々の会話の中で、本人の馴染みの人や場を把握して、関係が継続するよう支援している。地域の敬老会に出席したり美容院やお寺参り等それぞれの希望により、職員が付き添い出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、一緒に出て来られるなど、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、一緒に出て来られるなど、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、会議やサービス担当者会議で話し合い、内容によっては家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、会議やサービス担当者会議で話し合い、内容によっては家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	定期的な認知症介護の研修を実地し、思いを伝える事ができない入居者の行動を問題として捉えるのではなく、サインと考え、その立場に立った本人本位のケアに繋げている。一日の中でも午後のゆったりした時間は入居者の想いが聞けるので、把握、記録し職員が共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、本人や家族にお会いし、生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ね、フェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビ等を居室に置いてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。	利用前に、本人や家族にお会いし、生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ね、フェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビ等を居室に置いてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、出勤時に必ず目を通し現状の把握に努めている。状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、出勤時に必ず目を通し現状の把握に努めている。状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、計画に活かしている。	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、計画に活かしている。	ケアプラン更新時には、家族に担当者会議への参加を呼びかけ、意見や要望を聞いている。家族からは安全への配慮、排泄、入浴等ケア内容に関する希望や意見が出て計画に反映させている。毎日のケース記録の他、介護経過も詳しく記入され、定期的なモニタリング、評価、見直しにより本人本位の計画が作成されている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に必要なニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々へのニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。	本人やご家族の状況、その時々へのニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。その際、訪問看護師に、医療面からの情報提供書を作成してもらい、円滑な受診に繋がっている。	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。その際、訪問看護師に、医療面からの情報提供書を作成してもらい、円滑な受診に繋がっている。	本人や家族の希望する医療機関に受診できる事を説明している。基本的には、入居前のかかりつけ医を継続できるよう支援している。定期的な受診の他、其々の医療機関からの往診も受ける事が出来る。訪問看護師との契約により、週1回の問診があり、医療機関への情報提供をして貰う等、入居者の健康管理も充実している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は、体制が整った併設の施設に繋いだ実績がある。	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は、体制が整った併設の施設に繋いだ実績がある。	重度化した場合や終末期には、母体の特別養護老人ホームの看護師と連携し、ホームでも対応出来る体制がある。しかし、緊急時の場合や、医療管理が必要になれば、特別養護老人ホームでの対応が適切と考え、家族の同意を得て、移動してもらった経緯もあるが、これまで看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、毎年消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。	法人にて、毎年消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をしていただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせようになっている。施設内の同法人施設は市の福祉避難所に指定されており、非常食等も備蓄している。	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をしていただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせようになっている。施設内の同法人施設は市の福祉避難所に指定されており、非常食等も備蓄している。	毎年定期的に、昼間、夜間を想定し、災害時の避難訓練を実施している。母体の施設と共同で安全管理委員会を立ち上げ、近隣住民への協力依頼をしており、毎回区長の協力を得ている。市役所職員や婦人会の見守り等の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	「人格の尊重」はホームが特に力を入れており、理事長の指導も定期的に行われている。接遇の外部研修会に参加したり、ホームの会議でも、言葉づかいや関わり方の指導をしている。県の認知症介護実践者研修にも多くの職員を参加させ、人材育成に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、食器洗浄やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、希望のメニューに入居者様とともに調理している。	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、食器洗浄やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、希望のメニューに入居者様とともに調理している。	食事の献立作成は業者に委託しているが、入居者の希望やホームで収穫した野菜で季節感を出すなど臨機応変に変えている。入居者の能力に応じ、買い物、味付け、下ごしらえ、食器洗い等職員と一緒に楽しみながら手伝ってもらい、生き生きと生活できるよう支援している。職員も同じものを同じテーブルで、会話しながら食べている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や力に合わせ食事量や形態を工夫し提供している。アルブミン値の低い方には、おやつ時に豆類等たんぱく質の多いものを提供している。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物で補給してもらうように工夫している。食事や水分量は毎日記録し管理している。	個々の状態や力に合わせ食事量や形態を工夫し提供している。アルブミン値の低い方には、おやつ時に豆類等たんぱく質の多いものを提供している。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物で補給してもらうように工夫している。食事や水分量は毎日記録し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯や自歯の洗浄をして頂き、磨き残しや舌の汚れは、一部介助を行い、誤嚥性肺炎予防や清潔保持ができています。歯科医が薦める洗口液で口臭予防に繋がっている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け管理している。必要に応じ、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。	毎食後義歯や自歯の洗浄をして頂き、磨き残しや舌の汚れは、一部介助を行い、誤嚥性肺炎予防や清潔保持ができています。歯科医が薦める洗口液で口臭予防に繋がっている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け管理している。必要に応じ、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや、一部介助を行う事で安心されている。	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや、一部介助を行う事で安心されている。	排泄チェック表によりパターンを把握し、入居者に応じたトイレ誘導を行っている。退院時にはオムツ使用でホームに戻られても、トイレ誘導することで布パンツになった例もあり、入居者の可能性を見極め、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。慢性の方には、投薬で対応し医師に相談の上、服薬の調整を行っている。	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。慢性の方には、投薬で対応し医師に相談の上、服薬の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入られ、入浴剤を使用し色や香りも楽しまれている。湯音や手順等一人ひとりの希望やご家族様の意向も取り入れ、リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	個浴で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入られ、入浴剤を使用し色や香りも楽しまれている。湯音や手順等一人ひとりの希望やご家族様の意向も取り入れ、リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	入浴の基本は週2～3回としているが、希望があれば、毎日でも入浴できる。時間帯も希望を受けて夕方に入る方もおられる。重度化しても可能な限り、浴槽に入って頂きたいと、職員二人で抱えて介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や談話コーナーで寛いだり、午睡を促し適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られ、不眠時はホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。	居室や談話コーナーで寛いだり、午睡を促し適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られ、不眠時はホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケースに最新の薬状を入れ内容に変更があった時は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬を理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止の為4回の確認を行い、服薬の際は名前と日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。	個別のケースに最新の薬状を入れ内容に変更があった時は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬を理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止の為4回の確認を行い、服薬の際は名前と日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、計算ドリル等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていける様支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子をを選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、計算ドリル等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていける様支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子をを選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	散歩や買い物、ドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	気候にもよるが、毎日の散歩は法人敷地内に整備された公園「美彩の森」があり、季節ごとの花々を楽しむことができる。また、年間計画としてのドライブや日常的な受診、買い物、外食等の希望を受け支援している。個別にパーマや毛染めの希望があれば馴染みの美容室へ行ったり、お寺参り等職員ができる事を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられ、友人や家族に自分の好きなときに連絡を取られている。毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。	携帯電話を所持されている方もおられ、友人や家族に自分の好きなときに連絡を取られている。毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境に一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境に一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	リビングは天井が高く、広々として窓も広く明るい。ソファやテーブルも寛げる雰囲気がある。畳の間では入居者が洗濯物たたみをされている。季節に応じたしつらえを考え入居者が雛飾りやクリスマスツリーの飾りつけなど楽しんでいる。感染症対策として、常に清潔を心掛け清掃、消毒に努めている。ウッドデッキのベンチでゆっくりくつろぎ、自然豊かな景色を眺めながら季節を感じることが出来る。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やウッドデッキ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている	玄関やウッドデッキ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごしたり、一人で編み物をしたりと居心地のよい場所となっている。	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごしたり、一人で編み物をしたりと居心地のよい場所となっている。	廊下や居室入口の戸は和風で落ち着いた雰囲気である。家族の希望を受けプライバシーに配慮し、名札はないが、入居者が混乱されることはない。居室にはベットや収納家具が準備されているが、其々にテレビ、椅子や小物入れを持参され、趣味の飾りつけ等個性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活がおくれる様支援している。	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活がおくれる様支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない